

感 謝

山形県
鶴岡振武会
小学6年 菅原 伶太

「剣道で日本一になる！」これは僕が剣道を始めてすぐに手ぬぐいを書いた目標だ。

僕が剣道を始めたきっかけは友達だった。友達は年長から始めた剣道の話、いつも楽しそうにしていた。さそわれて見学に行った時、竹刀を一生懸命に振っている先輩たちがとてもかっこよく見え、すぐに入会を決めた。

あれから六年。僕の目標は変わらず、日本武道館で行われる全国大会で優勝し、日本一になることだった。そのためにどんなに暑い夏も、寒い冬も稽古や素振りをがんばった。

しかし、僕が四年生になった時には、新型コロナウイルスの影響で、全国大会はもちろん、地区の大会など、ほとんどの大会が中止になってしまった。

でも今年から少しずつ、大会が行われるようになり、目標にしていた全国大会が開催されると聞いたときは、本当にうれしかった。

僕は、目標に向かって今まで以上に稽古にはげんでいた。チームの士気も上がり、このままいけばもしかしたら…と期待をすることもあった。

そんな時、学校で左肘を骨折してしまった。県予選二週間前の大事な時期に稽古ができない日が続いた。このままでは間違いなくチームの足をひっぱることになる…と落ち込み、自分を責め、いつそのこと剣道をやめてメンバーから外れた方がいいのではとも考えていた。

そんな僕を支えてくれたのが一緒に剣道をしている仲間たちだった。仲間たちは、一言も僕を責めず、逆に「伶太がいないと全国大会にいけないから。」「僕たちがおまへの分も頑張るから、早く治すことだけを考えろ。」と、言ってくれた。

剣道に後ろむきだった僕は、仲間の気持ちがうれしくて、頼もしく思えた。このままではいけないと思い、今の自分でもやれることは何かを考え、ケガを治すことを第一にがんばった。

全国大会の予選の日、僕の肘は完全には治っていなかった。でも、仲間と一緒に全国大会の舞台に立ちたかった僕は主治医に頼み込み、条件付きで出場した。結果は、予選二位で全国大会出場を決めることが出来た。先生方や仲間のおかげであった。全力を出せなかった僕は、全国大会では仲間の力になろうと心に決めた。

そして全国大会の日。やっと夢の日本武道館に立てた。僕たちのチームは初戦から順調に勝ち進み、コート決勝までコマを進めたが、惜しくも敗れコート二位となった。この結果を先生方はほめてくれたが、目標に届かなかった僕は「チームの流れを作るためにも先鋒の僕が勝っていれば…」「ケガをしていなかったら、きちんと稽古ができていたら…」と、悔し

さが残る結果だった。

しかし、それ以上に、苦しい時期を支えてくれた仲間と一緒に全国大会に出れたことがうれしかった。また、コロナ禍でも大会を開催していただいた先生方にも感謝の気持ちしかない。

僕は、剣道を続けてきて本当に良かったと思う。思い通りにいかない時でもあきらめない気持ちが身についた。でも一番は、かけがいのない仲間ができたことだ。苦しい時にはげましてくれ、日本一という同じ目標をもって稽古ができたこと、本当に感謝している。

僕の夢である、日本一はかなわなかった。でも、新しい夢ができた。それは、学校の先生になり、剣道を通して、剣道の楽しさや仲間の大切さ、すばらしさを伝えられる人になりたいということだ。僕が感じた仲間や周りの人に対する感謝の気持ちを伝えていきたい。そのためにも、これからも剣道を続けていこうと思う。自分の夢、目標に向かって。